

立秋(8/7)を過ぎて暦の上では秋の始まりですが、まだまだ暑い日が続いています。それでもこれまでの猛烈な暑さが和らぎ、朝夕いくぶんか過ごしやすくなってきた感じがします。

来週 8/22(土)から「夏休みラジオ体操」が始まります。そして再来週 8/29(土)はいよいよ「み春野ふるさと夏祭り」です。先んじて 8/2 には「手作りちょうちん製作会」を開催しました。各自思い思いの図柄を描いてくれました。手描き提灯で夏祭り会場の夜を彩りたいと思います。

そして本日(8/16)は「盆踊り練習会」を開催しました。すっかり忘れていた振付や手の動かし方を思い出しました。

み春野の夏祭りは、これまでも準備段階から当日の運営・翌日の後片付けに至るまで会員の皆さんと一体となって手づくりで行ってきていますが、今回で23回目になります。

今年も子供たちの思い出に残るようなわくわくした「夏祭り」にしたいと思います。多くの皆さんのご協力とご参加をいただき、皆さんで大いに楽しんで盛り上げていきましょう！

8月29日(土) み春野ふるさと夏祭り

(8:00～ 会場設営 : 班長・副班長さん、実行委員・役員他)

16:00～ 子ども神輿巡行開始 : み春野公園周辺を練り歩きます、応援よろしくお願いします。

17:00～ チーバくんと遊ぼう！ (チーバくんとジャンケンやクイズ、有志による踊りや合唱を披露します)

18:00～ オープニングセレモニー : 自治会役員による太鼓演奏でスタート。その後、和太鼓サークル「鼓春」による力強い演奏を披露。役員とのコラボ演奏も企画しています。

19:00～ 盆踊りタイム (み春野音頭、親子三代千葉おどり、炭坑節)

20:00～ 花火大会 : 200 発以上の花火をスターマイン仕立てで連続して打ち上げます。

20:30～ 盆踊りタイム フィナーレ : 夏祭り終盤、これで踊り納めとなります。皆んな一緒に踊りましょう！

21:00～ 福引き大抽選会 : 今年の特賞は地元産の新米、次いで和牛肉、地元梨等々です。

※ 夏祭り進行の詳細及び会場レイアウトは配布のプログラムで確認ください。「福引き抽選券」が添付されているので、当日まで大切に保管ください。また夏祭りオリジナルうちわも一緒に配布しています。

※ 公園内のパーゴラ・東屋は共用休息施設につき場所取り・占用は厳禁です。皆が気持ちよく利用できるようお願いいたします。

み春野「打ち水大作戦！」

毎日暑い日が続いています。古くから夏の暑さを和らげるために行われてきた「打ち水」、皆んなでいっせいにしてみませんか？ 地面に水を撒くと、水が蒸発するときに地面の熱を奪い、温度が下がって涼しく感じます。

朝や夕方の日差しが弱い時間帯に水を撒くことで、水を地面に長時間保たせることができます。特に気温が下がり始めている夕暮れは打ち水との相乗効果で涼しさを感じやすく、おすすめです。

打ち水をする際には水の無駄遣いを防ぐため、風呂の残り水、子ども用プールの残り水、雨水など、できる限り二次利用水を使いましょう。皆んなで新しい習慣、始めてみませんか？

9月から「シニアリーダー体操」が始まります！

み春野でも9月から「シニアリーダー体操」をスタートします。転倒&認知機能の低下を防ぐ運動を皆んなで楽しみながら行ないます。第2・4水曜の10時から、運動のできる服装と靴で、飲み物持参で参加ください。

詳細は今回回覧の案内をご覧ください(9月のみ 9/9・9/30[第5週]になります)。

【各部からのお知らせ】

1 防犯・交通安全部より

《「駅周辺への用事にバスを使ってみよう!」》

現在、全国的な運転手不足の影響でバス路線の維持が大きな課題となっています。

み春野線(勝田台駅～み春野南)は、現在も平日・休日ともに運行が継続されており、通勤・通学や買い物、通院など地域の大切な移動手段となっています。

一方で、運賃収入だけでは運営が難しく、千葉市の補助金によって運行が支えられています。

補助金は利用状況などをもとに毎年評価されるため、将来的な減便や再編の可能性がないとは言えません。

また、周辺路線でも運転手不足や赤字の影響が続いており、今後のみ春野線にも影響が及ぶ可能性があります。

バス路線は一度廃止されると復活が非常に困難です。

地域の交通を守るためには、住民一人ひとりが日頃からバスを利用することが何より重要です。

「使うことが、守ること」につながります。

バス運行の現状詳細は HP に UP しましたのでそちらをご覧ください。



2 防災部より①

《「災害に強いまち」み春野の死角く地区防災計画の暫定運用と高齢化への挑戦》

み春野地区は、千葉市における最新の地震被害想定において、驚異的な耐性を示しています。一丁目から三丁目の全域・全時間帯(夏・冬)で死者は「0人」。建物の全壊棟数も一丁目は1~2棟、二丁目は3~7棟、三丁目は1~2棟と極めて少なく、液状化の全半壊もゼロです。私たちは「自宅が最も安全な避難所」となる、類まれな「災害に強いまち」に住んでいます。

しかし、この堅牢な街の陰に、見過ごせない「死角」が潜んでいます。それが急速な「一斉高齢化」です。現在の高齢化率は低いものの、2031年には約38.5%、実に住民の3人に1人がシニア層になる予測です。

建物が倒れなくても、住民が高齢化すれば災害時の社会的脆弱性は跳ね上がります。当地区の基本戦術は頑丈な家屋を活かした「原則・在宅避難」ですが、市の想定では発災2週間後も38%で断水が続く過酷な環境が示されています。体力が低下した高齢者だけで長期間の在宅生活を維持できるでしょうか。結果として、想定(各丁目ピーク時40~70人)を超える住民が避難所に殺到し、高齢者が高齢者を支える「老老避難」が現実になる恐れがあります。

だからこそ、策定された地区防災計画は「暫定運用」なのです。完成したと慢心せず、運用を通じて課題を洗い出し、柔軟に見直しを継続する姿勢が不可欠です。「桃色カード」やICTでの安否確認、非常用深井戸や福祉連携といった強固な共助装備も、高齢化に合わせて進化させなければ機能しません。

建物の強さに甘んじることなく、計画と共助を育て続けること。住民一人ひとりの参加と柔軟な見直しこそが、み春野を真の「防災先進ユートピア」へと導くのです。

2 防災部より②

《「沈黙がもたらす地域リスク“あなたの数分の沈黙が、弱い立場の人の命を奪う”》

み春野は分譲から約25年、住民の皆様の規範意識と地域への思いに支えられ、秩序ある住環境を維持してきました。これまでに実施した安否確認訓練では、多くの世帯が参加し、地域の安全を守る仕組みに理解を示していただきました。こうした行動は、み春野が災害に強い地域であり続けるための基盤であり、自治会として深く感謝申し上げます。

しかし、平均参加率は63%にとどまり、約350世帯に「無事を知らせるカード」の不掲出が見られました。災害直後は行政の救助がすぐには到達せず、安否確認は住民が担うしかありません。訓練で行っていない行動は本番では確実にできず、掲出の習慣がなければ仕組みは機能しません。不掲出は「自宅が安否確認の遅延要因になる」ことを自ら選択している状態であり、地域全体の救助活動に直接的な影響を及ぼします。

掲出のない家の確認には数分を要し、その遅れが350世帯分積み重なれば、要配慮者や高齢独居世帯への救助は確実に遅れます。み春野の住民構成は、50歳代の夫婦と10代後半から20代の子ども世代が中心です。皆様が安心して暮らしてこられた背景には、先輩世代が長年支えてきた地域の秩序と助け合いがあります。今度は私たちが、その先輩世代を守る番です。そして、いずれ自らも高齢者となり、支援を必要とする立場になります。安否確認の仕組みは、未来の自分自身を守るための準備でもあります。

これまでは不掲出であった方々には、忙しさや誤解など事情があったかもしれません。しかし災害は予告なく発生し、「無事を知らせるカード」を掲出しない「家」は救助の流れを止める遅延点となります。その影響を受けるのは、高齢独居世帯、障がいのある方、妊婦、乳幼児を抱える家庭など、自力での避難が難しい人々です。あなたの数分の沈黙が、誰かの命を左右する数分の遅れになります。この事実を一度だけでも真剣に受け止めていただきたいと思います。

近年、み春野においても様々な場面で「自分だけ良ければよい」「我が家は大丈夫だから関係ない」といった風潮が一部に見られます。また、夏祭りなどの楽しいイベントには積極的に参加する一方で、防災の取り組みなどは二の次になりがちです。しかし、平時の楽しさと有事の備えは両輪であり、どちらか一方だけでは地域は機能しません。祭りの賑わいを支えてきたのも、災害時に助け合うのも同じ地域の仲間です。防災を後回しにする姿勢が広がれば、いざという時に街は守れません。

「無事を知らせるカード」の掲出はおおよそ1分で終わる行為ですが、地域の救助体制を守るうえで最も確実に効果的な行動です。9月の訓練で参加率100%を目指すことは、み春野が未来にわたり機能する街であり続けるための最低条件です。地域の安全は、住民一人ひとりの小さな行動の積み重ねによって守られます。日本における花火文化は慰霊と厄除けの象徴であり、災害の記憶を継承し地域の備えを促す文化です。花火の光は、「次はあなたが地域を支える番である」という静かなメッセージでもあります。

3 その他

《「ちばレポ(My City Report)」のアプリを登録しておきましょう》



まちでみつけた地域の課題(道路が傷んでいる、公園の遊具が壊れているなど)を市民の皆さんがスマートフォンなどから投稿し、市と共有・解決につなげる仕組みです。市民と市役所(行政)、市民と市民の間で課題を共有することで、合理的・効率的に解決することを目指しています。

千葉市内で起きている様々な課題(たとえば道路が傷んでいる、公園の遊具が壊れているといった、地域での困った課題、これらを「ちばレポ」では「地域での課題」といいます。)を、ICT(情報通信技術)を使って、市民がレポートすることで、市民と市役所(行政)、市民と市民の間で、それらの課題を共有し、合理的、効率的に解決する仕組みです。

【WEB(インターネット)から投稿する】

https://www.city.chiba.jp/sogoseisaku/shichokoshitsu/kohokocho/chibarepo_toukou_web.html

<https://web.mycityreport.jp/>

【専用のアプリ・LINE から投稿する】

ちばレポアプリをインストール！	
  ※iOS 14以降	  ※Android 9以降
ユーザー登録！	

LINE からレポートできます！	
	
LINE アプリで「友達追加」！	